

# 道徳の時間学習指導案

三次市立みらさか小学校

- 1 日 時 平成29年 11月10日(金) 第2校時
- 2 学 年 第3学年 児童数27名(男子16名, 女子11名)
- 3 場 所 小学校棟 3学年教室
- 4 主題名 本当の友だち【内容項目B 友情・信頼】
- 5 ねらい 人間と友達になることを望む赤おにの気持ちを大切にするために、旅に出た青おにの手紙を読む赤おにの心情を考えるを通して、友達の立場や気持ちを理解し、信じ合うことの大切さに気づき、友達と信頼し、助け合おうとする道徳的心情を養う。
- 6 教材名 「ないた赤おに」 出典【 文溪堂 】

## 7 主題設定の理由

### ○主題観・価値観

本主題は、「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」のB-(9)「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと」をもとに設定した。

近年のゲーム機や通信機器の発達は、子ども達の遊び方にも影響を与えている。例えば、子ども達が何人か集まって、それぞれが個々にゲームを楽しんでいるという様子がある。それを子ども達は、「友達と一緒に遊んだ」ととらえているが、この状況は、空間は共有していても、互いの関わり合いの中でよりよいものを創造し、人間関係を構築していく遊びとなりにくいのではないか。個の中で進められる自分中心の遊びは、互いの関わりが薄いものとなる。子ども達にとって、友達は自分をどう受け入れてくれる存在かに重点が置かれ、互いの理解ではなく一方的に「～してもらおう」関係にとどまってしまう。

友達を理解するとは、その長所・短所をよく知り、認め合うことである。理解を深めることで互いの信頼が生まれる。関わり合いの中で、子ども達は互いを信頼し助け合う友人関係を育むことができるのである。時にはぶつかり合いながら、ともに失敗や悩みを乗り越えることで、お互いが本当の友達といえる関係になっていくものと考えている。

3年生のこの時期には、交友関係も広がり、気の合う友達同士で仲間を作り、集団での行動を楽しもうとする。それは、学校での友達や学校外での友達など自分の都合で仲良くしたり離れたりという関係も多い。また、その中で「自分が～したい。」「自分はこうしてほしい。」といった思いから、相手もそうであろうという自己本位な考え方をしてしまいがちである。そのため、互いに理解し、信じ合う関係にまで至っていない。信頼できる友達がいることは大きな喜びであると共に、心の支えになることに気付かせ、友達の立場や気持ちを心から大切にし、お互い支え合える関係を築いていこうとする心情を育てるために、本主題を設定した。

### ○児童観

本学級の児童は、明るく元気よく活動する児童が多く、男女にかかわらず話したり遊んだりしている姿をよく見る。また、行動範囲の広がりとともに学年を超えた交友関係の広がりも見せてきている。しかし、自分の気持ちを優先したい思いの強さから些細なことでもけんかになったり、友達の言い分を素直に聞くことができなかつたりする場面も多い。

《i-check 結果》

(児童 27 名回答)

質問項目	肯定的評価	否定的評価
あなたの気持ちを、分かってくれる友だちがいますか。	77. 8%	22. 2%
つらいことや、こまったことがあったとき、それを話せる友だちがいますか。	66. 7%	33. 3%
あなたががんばったとき、友だちから、がんばったね、すごいねとほめてもらったことがありますか。	85. 2%	14. 8%
かなしいとき、友だちからなぐさめてもらって、うれしかったことがありますか。	66. 7%	33. 3%
自分のいいところをいくつか言えますか。	77. 8%	22. 2%
仲のいいグループや友だちとの間で、あなたはたよられるタイプですか。	63. 0%	37. 0%
友だちがおちこんでいるとき、友だちが今どんな気持ちでいるかを考えてから、声をかけていますか。	88. 9%	11. 1%
友だちがうまくできたときは、いっしょによろこび、しっばいしたときは、はげましていますか。	85. 2%	14. 8%

《事前アンケート》複数回答あり

あなたにとって、友だちとはどんな人ですか。	
やさしい人	16人
大切な人	7人
思いやりのある人	3人
いっしょに遊んだり勉強したりする人	3人
助け合いができる人	2人
大切にしてくれる人	2人
心が通じ合える人	2人
仲良くできる人	1人
楽しい人	1人
親友	1人
親切な人	1人
信じられる人	1人
困ったときに話せる人	1人
教えてくれる人	1人
いい人	1人
ありがとうって言いたい人	1人

アンケート結果では、「友だちがおちこんでいるとき、友だちが今どんな気持ちでいるか考えていますか。」という質問に対して、88.9%の児童が肯定的評価だったが、「かなしいとき、友だちからなぐさめてもらって、うれしかったことがありますか。」という質問に対しては66.7%であった。このことから、自分は相手のことを分かっていると思っても、相手はそう感じていないこともあり、相手も自分と同じ考えであるという自己本位な考え方をしている児童もいる。また、「友だちとはどんな人ですか。」というアンケートに対し、59%の児童が「やさしい人」と答える児童が多く、まだ、自分の気持ちが優先し、互いの立場を思いやることで信頼や友情が深まるという意識には至っていない。

○教材観・指導観

本教材は、浜田廣介作の児童文学で、友情・信頼について深く考えることができる代表的な作品である。人間と友達になりたいと思う赤おにの思いを叶えるために、人間の悪者役になる提案を勧める青おに。赤おには、その提案に悩みながらも実行し、人間と仲良くなる。しかし、青おにが自分のた

めに一人で旅に出たことを知った赤おには、どんな時も自分を大切に思ってくれる青おにこそ本当の友達であることに気付く、涙する話である。

指導にあたり、導入では、「友達とはどんな人か。」というアンケート結果を回答の多かったものから提示し、価値への動機づけとする。

授業展開前段では、「人間の仲間になりたい。」という自分の願いや思いのために行動する赤おにと赤おにの悩みをどうにか解決しようと行動する青おにの友達としての思いの違いを比較し、最後にはそれぞれが互いに思い合っていることに気付かせたい。

中心発問では、「赤おには、手紙を読み、涙を流したとき、青おににどんなことを伝えたかったのでしょうか。」という問いにより、本当の友達とは、自分が一方的に「～してもらう」という関係にとどまらず、お互いを理解し、助け合っていくことで築かれていくという思いに気付かせていきたい。

価値を深める話し合いの過程として、まず、児童に自分の考えと向き合わせるために道徳ノートを活用し、自分の考えを記述させる。その後、グループで交流し、自分の考えと友達の考えの相違点に気付かせたい。その中で、友達の考えに対し、「問い（どうしてそう思ったのか。どういう意味なのか。）」を見つけて、学級全体で考えさせたい。

終末では、「学習発表会」に向けた児童達の姿とつなげ、信頼できる友達がいることは大きな喜びであると共に、心の支えになることに気付かせ、友達の立場や気持ちを心から大切に、お互い支え合える関係を築いていこうとする思いを持たせたい。

## 8 指導のポイント

### (1) 小中9年間の発達段階における【友情・信頼】のとらえ

段階	学習指導要領（ねらい）	ポイント	児童・生徒の言葉
低学年	友達と仲良くし、助け合うこと。	・友達と仲良くする。 ・友達と助け合う。	・友達と一緒にいると楽しい。 ・友達と一緒になら頑張れる。 ・友達をたくさんつくりたい。
中学年	友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。	・友達と理解し合う。 ・友達と信頼し合う。	・友達には良いところがある。 ・友達と心から信じ合える。
高学年	友達と互いに信頼し、学び合っ て友情を深め、異性についても 理解しながら、人間関係を築い ていくこと。	・友達と学び合う。 ・異性を理解する。	・友達からいろいろと学ぶこと がある。 ・男子も女子もお互いの良さを 認め合おう。
中学生	友情の尊さを理解して心から 信頼できる友達をもち、互いに 励まし合い、高め合うとともに、 異性についての理解を深め、 悩みや葛藤も経験しながら 人間関係を深めていくこと。	・友情の尊さを理解する。 ・友達と励まし合う。 ・友達と高め合う。 ・悩みや葛藤を乗り越え、 人間関係を深める。	・友達は生涯の宝物。 ・友達は信頼できる相談相手で あり、良きライバルでもある。 ・友達とはケンカもするけど、 何でも話せる。

### (2) 主体的に学び合う授業づくりについて

#### ○導入の工夫

- ・「友達とはどんな人か。」というアンケート結果を提示し、価値への動機付けをする。

#### ○中心発問へのアプローチ

- ・青おにからの手紙を読むまでの赤おにの行動が自分のことしか考えていなかったことを捉えさせるために、赤おにと青おにのそれぞれの心情を矢印で捉えさせ、アンケート結果を赤おにと青おにの関係へつなげ、友情への道徳的価値について考えさせる。

#### ○自分の生活へつなげる工夫

- ・本時の授業で考えたことを、自分たちの日常生活と関連させ、道徳的実践意欲と態度につなげる。

### (3) 協働的に学び合う授業づくりについて

- ・自分の考えを明確にするために、道徳ノートに記述させる。そして、自分と友達の考えの相違点を見つけさせ、価値の深化を図るため、グループ学習で交流させる。
- ・グループ学習を行い、他者の考えに対して相違点を見つけさせ、友達の意見に問いを見出し、価値を多角的に考えさせる。

## 9 評価

授業評価のためのルーブリック

<b>Hop</b>	<b>Step</b>	<b>Jump</b>
人間と友達になることを望む赤おにの気持ちを大切にするために、旅に出た青おにの手紙を読む赤おにの心情を考えることができる授業であった。	友達の立場や気持ちを理解し、信じ合うことの大切さに気づくことができる授業であった。	友達と信頼し、助け合おうとする道徳的心情を養うことができる授業であった。

## 10 準備物

児童配布用教材，挿絵，発問の短冊，道徳ノート

ひとりひとりの良さを集め、なかまとのチームワークを深めよう。

中心となる学習活動：「ピオーネづくり」（総合的な学習の時間）

**主体性を育てる**

【総合的な学習の時間における道徳教育のねらい】  
自己の目標に向かって、粘り強くやり遂げようとする心情を育む。

**自己有用感を育てる**

【総合的な学習の時間における道徳教育のねらい】  
自分の地域の良さに気付き、地域の人々や生活、文化、伝統に親しみ、郷土を愛する心情を育む。

道徳の時間  
「ゆめにむかって」（日本標準）  
A 希望と勇氣  
努力と強い意志  
北島選手が困難に負けず、自分のたてた目標に向かって努力する姿勢を通して、自分の弱さを乗り越えて努力していくことの大切さに気付かせ、やろうと決めたことを最後までくじけずにやりとげようとする道徳的心情を養う。

道徳の時間  
「わたしたちのふるさと」（東京書籍）  
C 伝統と文化の尊重・国や郷土を愛する態度  
みわが自分の町で自慢できる「そば」について調べていき、ふるさとの良さを改めて実感していくことを通して、自分のふるさとを愛する道徳的心情を養う。

**コミュニケーション能力を育む**

【総合的な学習の時間における道徳教育のねらい】  
友達と互いに理解し合い、信頼し、助け合いながら人間関係を築いていこうとする心情を育む。

道徳の時間  
「ないた赤おに」（文溪堂）  
B 友情・信頼  
青おにが、赤おにの人間のなかまになりたい気持ちを理解し、手紙を残して去ったことを知ったときの赤おにの心情を通して、友達の立場や気持ちを理解し、信じ合うことの大切さに気付かせ、友達と信頼し、助け合おうとする道徳的心情を養う。

特別活動 自分の生き方を考える

道徳の時間 D 生命の尊さ 「いのちのまじり」（東京書籍）  
自分の命が先祖からつながってきたことを知り、つながり続ける命を大切にしようとする心情を培う。

道徳の時間 D 生命の尊さ 「電池が切れるまで」（文部科学省）

4月

3月

9月~11月

○ 期待する意識の流れ

友達の命も自分の命と同じようにひとりひとりの命とつながっているんだ→友達を大切に、いっしょに助け合っていきたいな

1.2 学習展開

	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の心の動き (◎中心発問)	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	1 「友だちはどんな人か」 事前アンケート結果を振り返る。	○「友だちとはどんな人か。」をアンケートを書いてもらいましたね。このクラスのみんが考える「友だち」とはこのような人です。 ・やさしい人 ・いっしょに遊んだり勉強したりする人 ・思いやりのある人 ・大切にしてくれる人	○事前アンケートの友達についてのアンケート結果から、価値についての動機づけとする。
展	2 「ないた赤おに」を聞いて話し合う。 (1)人間と仲良くしたいのにうまくいかない赤おにの心情を考える。	○「ないた赤おに」を聞き、話し合います。 ○立て札をこわしたとき、赤おにはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・人間ってひどい。 ・仲良くしたいだけなのになさしい。 ・なんで分かってくれないんだ。 ・仲良くなりたいたいのになあ。	○児童の状況把握のため、板書には赤おにと青おにのそれぞれの思いや相互関係を時系列で掲示していく。 ○赤おにの立て札を壊すほどの怒りや悔しさが、自分の寂しさから人間の仲間が欲しかったことからきていることに気付かせる。
開	(2)青おにの作戦にのり、青おにをなぐっているときの赤おにの心情を考える。	○青おにをぼかぼか打ちながら、赤おにはどんなことを考えていたのでしょうか。 ・青おにくんごめんね。 ・ぼくのためにありがとう。 ・このままでいいのかな。 ・やめておけばよかったかな。 ・でも人間となかよくなりたいたいんだ。	○同じ場面における赤おにと青おにのそれぞれの「友情」への価値観の違いに気付かせるため、それぞれの友達に対する思いの強さを矢印で表現していく。
	(3)青おにの手紙を読み、涙を流した赤おにの気持ちを考えさせる。 (個人→グループ) 【かんがえる】 【問いをさがす】	補) 青おには、「だめだ。しっかりぶつんだよ。」と言ったとき、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・痛いけど、赤おにくんのためだ！ ・赤おにくん、がんばって。 ・赤おにくんが人間となかよくなってほしい。  ◎赤おには、手紙を読み、涙を流したとき、青おににどんなことを伝えたかったのでしょうか。 ・青おにくん、もどってきて。 ・青おにくん、ごめん。 ・ぼくは自分のことしか考えていなかったのに、君はこんなにもぼくのことを考えてくれてありがとう。 ・青おにくんが一番の友達だ。 ・君はぼくにとって本当に大切な友達だ。	○自分の考えを道徳ノートに記述させ、自分の考えに向き合わせる。 ○記述した考えをもとにグループや学級で交流し、意見の相違点を見つけさせることでより高い価値に気付かせる。 ○赤おにが自分のしたことへの後悔だけでなく、赤おにと青おにの互いの友情に気付かせる。 ○事前アンケート結果から、「友達」についての価値を深めさせる。 ☆友達の大切さに気付

	3 自分の生活を振り返る。 (内省化) <b>【みらいへのヒント】</b>	○友だちとは、どんな人なのでしょう。 ○話し合ったことの中から、「未来へのヒント」を考えてみましょう。	き、互いに思い合うことについて考えている。(ノート・発言)  ○学んだ価値について、自分の生活や経験を振り返り、これからの生活に生かす思いを振り返りに書かせる。
終	4 学習発表会を振り返る。	○友達と協力し合った学習発表会を振り返りましょう。	○道徳プログラムの関連を生かし、「友情・信頼」の思いを自分の生活に重ねて深めさせる。
末	5 ルーブリックで本時の自己評価をする。	○今日の学習についてルーブリックで振り返りましょう。	

